

## 農村工学技術研修の開催

技術移転部技術研修室

### 1. ため池防災・減災技術研修の実施

ため池防災・減災技術研修については、昨年度と同様に Web 形式（eラーニング）で実施しました。

本研修では、ため池決壊時の氾濫解析を行うソフト「SIPOND(エスアイポンド)」を使って氾濫解析を行い、その結果の妥当性と下流域の被災リスク等を検討した上で、GIS ソフトを用いて浸水想定区域図を作成する演習を行い、その結果について講師が助言等を行いました。研修期間は5月19日（月）～23日（金）の5日間とし、研修生の参加人数は45人程度でした。研修実施後の研修生からの意見として、「ハザードマップの作成にあたり、地方自治体の役割を学ぶことができた。」「実践的に氾濫解析を実施できて勉強になった。」「現在の業務に相当関連しており、今後の委託業務や関係市町村への助言などに活きる研修であった」、「貯水量が大きいため池の氾濫解析は時間がかかり苦労した。」などがありました。

### 2. 農村工学技術研修（農村防災・減災技術指導者）の実施

6月2日（月）～6日（金）の期間、参加人数10名（県：8名、土地連2名）で実施しました。

研修内容は、農村防災・減災技術に係る講義、ため池決壊時の氾濫解析を行うソフトを使って氾濫解析を行い、浸水想定区域図を作成する演習を行い、その結果をグループ毎にとりまとめ、発表・意見交換を行いました。研修実施後の研修生からの意見として、「日ごろから自分の地域の地質や過去の災害歴を調べておくこと、災害のメカニズムを知っておくことが大切だと感じた」「演習課題は、ただソフトを利用するだけでなく、考察のために考えながらソフトを使用できたので、実際の業務に近い形で利用できてよかった」などがありました。

なお、研修内容を即時に活かせるよう研修期間を梅雨等の出水期が本格化する前の6月上旬に実施しました。

### 3. 農村工学技術研修（ダム機能保全Ⅰ）の実施

6月2日（月）～6日（金）の期間、参加人数14名（国：5名、県：9名）で実施しました。研修内容は、ダムの関わる調査・設計・施工等の建設技術に関する講義を行いました。

本研修は3週間後に開催されるダム機能保全Ⅱ研修と両方に参加する研修生の負担に配慮して昨年度からオンライン研修としています。



「農村防災・減災技術指導者」研修 実習状況（ため池の氾濫解析）